

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		年齢と共に入居者のADLが1年ごとに変化し、各入居者ごとの個別の対応が、更に必要になっている。状況判断の早さが求められ、入居者の体力的な部分も考慮した上での受診等の判断をどの段階でしたらよいか課題となっている	状態変化を早期発見できるように普段からADLを把握をし、記録を残し、迅速な対応ができるように、全職員が心がける。	入居者個々のADLの状況を的確に把握し、グループホームでの「ケース検討会」、ご家族との「家族カンファレンス会議」はもちろん、かかりつけ医との連携も常時取り、状況を把握し常に迅速に対応できるようにしていく。	12ヶ月
2		認知症高齢者である入居者のケアを仕事として行うにあたり、介護職員の知識、行動力が重要になっているが、さらなる向上を目指した学習方法など、ケアの実践に役立てていく	認知症高齢者グループホームという実践の場で、認知症ケアに活かせるような勉強と学習をし、認知症ケアに必要な知識を身につけるようにする	認知症ケアなど各種研修会への参加と、経験豊富な職員の力を活かした「職場内研修」にて認知症高齢者への共通理解を図り、職場全体がレベルアップできるように取り組む	6ヶ月
3		入居者の健康状態を考えていく上で、医師及びご家族との情報の共有をすることが重要になってくる。ターミナルを考えていく上で、医師、家族、施設の三者で話し合いが出来、方向性を決めておけるかが入居されている方に対して安心して生活を送ってもらえるかが課題	常に病院との関係を密にし、話し合いをしておけるかということ、ご家族にも正しい情報を伝え、理解を得られるようにしておく。早期対応が必要であり、情報の共有を得ておく。	医師とのきちんとした話し合いを日頃の受診から心がけておくことが必要で、夜間等の対応も決めておく。また、ご家族にもその都度、電話等で話をしておき、必要な際には早めに話し合いの場を設け、方向性を再度確認しておく。結果を職員で情報の共有をしておく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。